

産地便り

～ 茨城県西地区の『味珠』と『冬の舞』の栽培について～

産地概要

茨城県西地区は冷涼地のあとをついで10月から2月出荷の寒玉キャベツ産地であり、初夏どりとあわせおよそ1,800haの作付けがあります。ここでは、近年作付けの増加している10月どり品種『味珠』と、耐寒性、在圃性の高い冬どり品種『冬の舞』についてご紹介します。



あじ たま 味 珠

渡辺交配

～10月どり寒玉早生種『味珠』キャベツの栽培～

栽培環境

2007年は8月盆明けから各地で史上最高気温を記録する猛暑になり、10月どり栽培では定植後の枯れや活着不良による生育ムラ、結球時前からのCa欠乏症(チップバーン)、結球後の株腐れ病の発生など非常に苦勞の多い年になりました。

『味珠』は耐暑性が強く、栽培しやすい10月どり品種として一昨年より幅広く導入され、昨年一気に栽培が拡大しました。一部の地域で株腐れ病の発生が見られましたが、その反省を踏まえて栽培のポイントを紹介します。

育苗

- 播種時期は6月下旬～7月中旬です。播種が遅れると球は小さく、極甲高球となり不適當です。あくまでも10月どりを目安に播種してください。
- 高温期の栽培に適した品種であり、胚軸が短くガッチリと育つため、セルトレイでの育苗、定植に適した品種です。育苗日数25日位、本葉3～4枚の若苗を定植します。高温乾燥期であるため定植前に「慣らし」を行い苗を硬化して定植します。

施肥量

- やや開張性で草勢の強い早生品種です。また、温度の高い時期の栽培のため施肥量は控えめにしてください。多肥栽培では、外葉が旺盛に育つために、株ごとに勝ち負けができやすくなり、生育の揃いが悪くなるほか、風通しが悪くなるために株腐れ病の原因ともなります。生育期間が短い元肥主体で従来品種より20%程度チン量を抑えて栽培します。

食味について

- 従来品種より、球色は濃く、葉肉は厚く、ジューシーです。味珠を栽培した生産者からは、「見た目がとてもきれいで、味は今まで作った中で一番おいしい。」とのコメントを頂いております。

薬剤防除

- 10月どり栽培では育苗期からハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイムシ)の発生が多く、減収につながります。育苗期から殺虫剤の散布が必要です。
- 生育期が台風シーズンに当たるため、強風雨の後には黒腐れ病対策が必要です。また、結球期に近くなったら株腐れ病予防のための薬剤散布を定期的に行います。



渡辺交配

ふゆ まい 冬の舞

～12月～2月どり寒玉中生種『冬の舞』キャベツの栽培～

中間地の冬どり栽培で12月上旬から2月中旬まで収穫できる耐寒性、在圃性の高い品種が『冬の舞』です。球は1.5～2.5kgの甲高扁円形で、きわめて収量性が高く加工に適した品種です。遅くとも年内に八分結球まで進め、そのまま越冬させてじっくり充実するのを待ち収穫します。



育苗

- 播種時期は地域により異なりますが、関東中間地では7月25日から8月5日くらいが適期となります。播種時期を早めると、定植後の生育が旺盛となり、茎葉がこみ合い、強風雨に傷められ黒腐れ病、黒斑細菌病の発生を助長します。播種時期を厳守してください。

施肥量

- 生育期間の長い品種ですので、生育後半に肥切れを起こさないように、追肥型の施肥設計とします。施肥量は畑の肥沃度により異なりますが、チン成分量でおよそ15～20kgとし、元肥で1/2、追肥で定植後20日目頃、さらに20日後の2回に分けて残りの1/2を施します。

定植

- 一般的には条間55～60cm×株間35cm位ですが、大玉を狙うには条間60cm×株間40cm位の栽植密度(4,200株/10a)が適しています。



T社AS種 T社AY種 冬の舞 N社H種

表1: 冬の舞の品種特性

播種: 2007年7月28日 定植: 2007年8月28日(60cm×35cm) 収穫: 2008年1月31日

品 種 名	T社AS種	T社AY種	冬の舞	N社H種
球 重	1.60kg	1.24kg	1.70kg	1.90kg
球 高 (a)	13.7cm	13.5cm	14.8cm	14.9cm
球 径 (b)	21.3cm	22.0cm	21.8cm	22.2cm
球 形 比 (a÷b)	0.64	0.61	0.68	0.67
芯 高 (c)	8.8cm	5.8cm	8.2cm	9.8cm
芯 高 比 (c÷a)	0.64	0.43	0.55	0.66
玉 締 ま り	5	2	4	5
アントシアン	+++	+	+	+++
凍 害	++	-	-	+

※ 玉締めまり…1(ゆるい)～5(硬く締まる) アントシアンの程度…-(発生無し)～+++ (発生程度・強) 凍害の程度…-(凍害無し)～+++ (凍害発生・強)

薬剤散布

- 生育初期はハイマダラノメイガ、定植後からはヨトウムシ、ハスモンヨトウの被害が大きくなります。また、強勢に育つと黒腐れの発生も見られるため、定期的な薬剤散布を要します。
- 農薬散布は同一薬剤を連続散布するのではなく、登録のある農薬のうち、異なる作用機構を持つ薬剤を組み合わせ使用します。詳しくはお近くの普及センター、農協、種苗店にお問い合わせ下さい。

新 品 種 予告品種

11月どりの寒玉中早生品種



NX-BY755 (67日タイプ)



NX-BY757 (70日タイプ)

渡辺農事の寒玉シリーズで10～2月(中間地)まで収穫が可能となります。